

みなさん、ありがとうございました！

私、感染制御部の部長・朝野和典は、3月末日で定年退職いたします。

大阪大学附属病院で皆さんと一緒に勤務できましたことを心から誇りに思い、感謝申し上げます。

私は、2003年に感染制御部が中央診療部門に新設されるのを機に、長崎大学から赴任して参りました。それからの18年間、2003年にSARS、2009年に新型インフルエンザの脅威があり、また2004年と2007年に2度の多剤耐性緑膿菌（MDRP）の院内感染アウトブレイクが起こり、記者会見を開いて報道されたこともありました。このようないくつかの病院にとっての試練を乗り越え、むしろそれらを糧にして、感染制御部は皆さんと一緒に成長して参りました。その結果が、まさに阪大病院のCOVID-19診療となって表れたと思っております。病院のあらゆる部門の皆さんが病院長の指揮の下、力を合わせて、どこよりも積極的、かつ安全にCOVID-19の最重症患者さんへの質の高い診療を実施することができております。これらの感染対策の質的な向上は、阪大病院の職員の皆さん一人ひとりの優秀さとプロフェッショナルリズム、そして医療職としての患者を守るプライドに基づくものと確信しています。

また、感染制御部では、増員していただいたスタッフと共に、地域の感染対策にも貢献してきました。薬剤耐性菌をはじめとする感染対策は一つの病院だけでは不十分で、患者さんが行き来する地域全体で取り組むことが必要であり、私たちの吹田市および北摂地域では病院間の感染対策の協力体制がしっかり出来上がりました。

私は、今後しばらく大阪府の公衆衛生対策に携わることになりますので、今後とも協力してWith コロナの時代の難局を乗り越えていこうと思っています。

これからも“阪大病院の仲間”としてよろしくお願い申し上げます。

朝野和典

